

同

五洲労働事務局

鮎沢 出廠

滿洲事変後日本は五洲聯盟の方針を背馳するところあり、

聯盟下リク脱退をせよ、高懸賜うを望むに在るが如く、

日本は東洋に東亞の天竺の踏躰する事なく、進んで世界平和を

在りて協力せよ、申す末にもなく、日本は人口過剰

1912天竺踏躰に合し、わが身をかかす、海外に踏躰するものは

必要あり、印に世界の産業をとりて、其に踏躰するが在り

1913健康なる労働者、自覚を有する労働運動が絶好に必要

あり、健康なる労働者、自覚を有する労働運動が絶好に必要